



特集・産業教育の明日を拓く～学都・石川でさんフェア開催！～

地域創造科より

十一月五日(土)・六日(日)にかけて、「心と技の彩りを百万石の集いから」をキャッチコピーとして、第二十六回全国産業教育フェア石川大会(さんフェア)が石川アソシエーション(ASO)が金沢市の石川県産業展示館を中心として開催されました。地域創造科の二・三年生や職員が農業部会、水産部会、家庭部会などの準備や運営にあたりました。主なイベントは、作品展示、展示販売、世界農業遺産シンポジウム(農業)、体験コーナー(水産・家庭・看護)、書道パフォーマンス(書道部)、全生徒が参加交流し、本校の活動を全国から集まった方々に発信することができました。

また、この二日間のために生徒実行員三名は二年次六回、三年次七回の実行委員会と臨時実行委員会四回の計十七回の会議を重ねてきました。県内の生徒三十九名と共に開会式典から閉会式典のアトラクション(テーマソング、書道パフォーマンス、演劇、歌、踊り)に関わり、大会当日は自分の役割をしっかりと果たすことができました。

水産コース

【生徒感想より】

産フェアで水産コースと水産部会の紹介をするようになりました。水産コースではいつも自分達が行っている授業や実習などを、水産部会では全国の水産・海洋系の高校が取り組んでいる活動などを紹介しました。能登高校は石川県で唯一水産を学ぶことができます。とはいっても、規模の小さなコースです。たとえ小規模でも、僕たちは水産について幅広く精一杯学習活動をしています。しかし、全国の水産・海洋科の高校では水産の各分野のことを専門に学んでいて、コースとは違っていました。

科のある高校の活動や研究はレベルが高く、コースでは絶対できないことをしていると実感しました。特に三谷水産高校のモンドセレクション金賞を受賞した「愛知丸ごはん」は、カツオの一本釣り実習船愛知丸と連携し、科の顔と言える製品を開発していました。そんな中でも、自分たちの活動を産フェアで大勢の人の前で発表する事ができ、自分にとってとてもいい経験ができました。

全国を知った中で、小規模ながらも能登高水産コースならではの特徴を活かしながら、これからの水産海洋学習に繋げて行きたいです。

農業コース

【生徒感想より】

世界農業遺産シンポジウムで開会宣言や司会進行など県外の高校生や先生方と協力して成功させることができて良かったです。前日から緊張して不安なこともありました。能登高校の実行委員会として全国の舞台で発表(トークライブセッション)や司会をしたというところはとても貴重な経験となりました。

作品展示コーナーには一般の方がたくさん来て下さいました。質問されても自信をもって答えられること、のむずかしさを痛感しました。

商業コース

【生徒感想より】

私は産業教育フェアに商業コースとして、水産コースの生徒が作った品物を販売するという機会を頂きました。

自分が想像していた以上の数のお客さんと他校の店に圧倒されてしまい、「いらしゃいませー」の一言がなかなか出せずに午前中は過ぎました。しかし、クラスメイトが不器用ながらも一生懸命

な姿を見て私も自分が出来ることをやろうと声掛けからやってみました。始めはただ能登高のお店に目を向けた人を中心に「いらしゃいませ」を言っていました。次第にどんどん声を出すことが楽しくなってきた。積極的に呼び込みを行っていました。お客さんとのほんの些細なコミュニケーションが楽しく、お昼休憩の時間も販売していました。それほどこの産業教育フェアで得た楽しい時間と経験は自分にとって良いものになりました！

書道部

【生徒感想より】

書道部にとって産業教育フェアでのパフォーマンスは今年最後での最大のイベントでした。練習を積み重ねる中で一人ひとりの意見を尊重し合い、動きのタイミングが同じ人同士で演出を考えました。また、今回はいつも以上に文字の練習に取り組みました。空いた時間を見つけて先生に細かく指導して頂き、本番では自分の納得のいく仕上がりになりました。笛や太鼓、よさこい等のパフォーマンスを通して、最後は見てくださったお客さんと一緒に盛り上がる事ができました。

家庭部

【生徒感想より】

家庭部は、代表四名が、家庭科の体験コーナー「水引づくり」に係として参加しました。

加賀水引は金沢に古くから伝わる伝統工芸です。なれてしまえば簡単ですが、最後までねじれないようにそらえて美しく結ぶのは難しく、繰り返し練習して、本番に臨みました。初めてお会いする方への接客で緊張しましたが、お客様はみなさんキーホルダーができあがるとうれしそうに「ありがとう」といつてくださり、私たちも参加して良かったと思えました。とても良い経験をする事ができました。



有難うございました



2年団より

能都中生と合唱交流



熱唱で魅了

十月二十一日(金)能都中文化祭中間発表にて、能登高祭で歌った合唱曲「旅立ちの時」を披露しました。「歌うことで自分たちの思いを届ける」そんな高校生の姿を見て頂きました。

【生徒感想より】
十一月二十二日に北國新聞社にて第二十一回北國あすなろ賞の表彰式がありました。北國あすなろ賞とは、北國新聞社が善行や奉仕活動などを通じて地域に貢献した児童、生徒を表彰するものです。本校生徒の積極的なボランティア活動への参加や地域創造科の各コースの特色を生かした取り組み、書道部の書道パフォーマンスや吹奏楽部の演奏披露への参加が認められ、受賞に至りました。これからも能登高校生徒一同、地域に貢献できるように活動を続けていきますので、ご協力よろしく願致します。



喜色満面

生徒会より

十一月八日、能登高校AJC

ジョシユア先生の友人、ジラさんが来校されました。ジラさんは祖国のタイ王国の文化や言語について教えてくださいました。タイの言語には声調があり、なかなか生徒は瞬時に覚えることができませんでしたが、ジラさんは日本語を一度聞いて覚えてみせたことに生徒一同驚いていました。いろいろ教えて下さったお礼に、ジラさんの観光の手助けになればと、生徒が奥能登の名所や料理について英語で説明しました。微笑みの国から来た友人に素敵な笑顔をプレゼントすることができました。



国際親善の使徒として 能登を伝える

総務課より

十一月三日(水) おもてなし講座

一・二年生は日本航空大学航空ビジネス科教官、片岡和代氏を講師として迎え、「ビジネスマナーの基礎」についてお話しいただきました。第一印象の大切さについて触れられ、第一印象を良くするポイントである、笑顔(表情、お辞儀、挨拶、身だしなみとお洒落の差異について教えていただきました。「完璧にできるかどうかは問題ではありません。一生懸命努力することが大切です。」と話を締めくくられました。

三年生は百薬荘の蔵雅博氏を講師として迎え、「おもてなし」と「夢」についてお話しいただきました。百薬荘の従業員の皆さんが考える「おもてなし」とは、代金の対価としてのサービスの上にあるものを提供する。そのためには、地元のことをよく知ることが好きになることが大切であり、好きな能登を発信していくことで、日本、さらには世界を創っていくことが夢であると話してくださいました。涙あり、笑いありの二時間でした。

十月十九日(水) 元氣塾

富山県ファミリーパーク園長の山本茂行氏を招き、里山文化について講演して戴きました。国や環境省のみに頼らず、絶滅危惧種の保護に取り組みまれておられる山本氏の話から、何かに取り組むときは情熱をもってやり抜く姿勢を学ばせて頂きました。



おもてなし講座・元氣塾にて

社会人としての責任と使命について学ぶ

管理職エッセイ

教頭 大工 高志

12月*主な行事予定*

- 1日 期末考査(～2、5、6日)
- 6日 非行防止教室、春蘭の里見学(1年)
- 8日 食育講座(3年地域フードデザイン)
- 10日 土曜スクール、農業技術検定
- 11日 鳳雛塾
- 15日 政治的教養を育む教育(1年)
- 21日 鳳柳寮クリスマス会
- 22日 大掃除、終業式、閉寮
- 23日 冬季休業(～1月9日)
- 26日 保護者懇談会、1・2年補習(～28日)
- 29日 校舎閉鎖(～1月3日)

わたくしといふ現象は既定された有機交流電灯のひとつの青い照明です。風景やみんなのいっしょにせはしく、せはしく、舞滅しながらいかにもたしかにとりつつけるひとつの青い照明です。宮澤賢治の『春と修羅』の序文です。ここで目を引くのは、賢治が「わたくし」というものをひとつの「現象」であるとしておていることです。「現象」には必ずそれを引き起こす「原因」が存在します。風が吹くと木の枝が揺れる。雨が降ると地面がぬかるむ。これは風が吹く、雨が降るといふ「原因」によって、木の枝が揺れる、地面がぬかるむという「現象」が起きているということです。それは「わたくし」という「現象」を引き起こしている「原因」はいったい何なのでしょう。日常生活のさまざまな場面において、笑い、腹を立て、喜び、悲しむ「わたくし」の中に存在する、「わたくし」の感性や好悪を形づくる「原因」を考察することがどうやら私たちには必要なのようです。

高校生活、各学年の後半にはそれぞれの段階で進路について考えねばなりません。具体的には、三年生は進路実現や卒業後の在り方、二年生は来年度の自分の具体的な進路先と実現の方法、一年生はコース選択や進路可能性の拡大といったところ。自己の進路について考えることは、未来について考えることであり同時にこれまでの自分の考えを見直すことにもつながります。変えることのできることを変えることのできないものを識別することにつながっていきます。これからみなさんが生きていく社会は、グローバル化とIT化の急速な進行という二つの大きな波のために、これまでとは少し違ったものになりそうです。自己の未来を考える時、そういった社会状況の変化を念頭に考えてみるのが大切です。増加する世界人口と減少する国内人口。二つの乖離した波の間で、国内企業が国外に市場を求めて進出しています。どれだけ知識や技術を持っていったとしても、どれだけ多くの経験を積んでいても、初めに目にするような出来事が起ころ、対処方法もわからず試行錯誤を繰り返すような事象がこれからは起ころってくるかも知れません。何一つ自分を傷つけないものや自分だけの世界にするのができればよいのですが、そうはうまくいかないようです。自己の未来を考え、自己の過去を考える。その経験を通じて、これからの社会を生き抜く強い力を高めてください。

